

くらしの中から考える

家事



母の働きぶりを
見るのが好き
だった。

中村さんは家事を「家族
全員が笑顔になるようにす
る仕事」と表現。多くの家
事をどの時間にどうこなす
かを考えて、家族が生活を
楽しめるように日々の暮らし
をデザインするのが主夫
・主婦の役目だと捉えてい
る。「例えば料理を失敗し
ても、みんなで笑えればそ
れでいい」と話す。

性別による家事の向き不
向きはない。「家事は体を
動かすことと思われがちだ
が、家族がいい関係を保つ
ための全てが家事」。外で
働いている中村さんの妻
も、家族の前でいつも笑っ
ていることで家事に参加し
ているというわけだ。「ど
んな家事があるかを家族で
共有して、コミュニケーション
を取りながら適材適所
でやればいい」

家事を楽しむ男性も。「主
夫芸人」として活動する中
村シユフさん(40)＝写真＝
は、一年に結婚して以来、
三人の娘の育児と家事を担
っている。「子どもの頃から
ら専業主婦の
母の働きぶり
を見るのが好
きだった」。

適材適所 家族で共有を

「主夫芸人」中村シユフさん

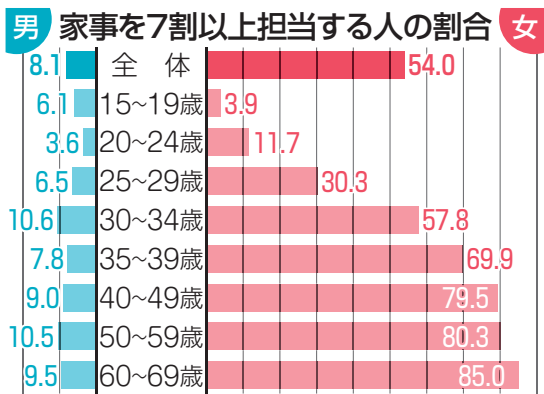
国が二〇一六年に行った
調査によると、十歳以上の
人が家事をしている一日当
たりの平均時間は、女性が
二時間二十四分、男性が十
九分。昔に比べて家事をす

る男性が増えたといわれる
が、女性の方が多くの時間
を家事に費やしている状況
は変わっていない。
昨年六月のリサーチ会社
の調査では、同居している
家族の中で、自分が家事の
七割以上を担っていると答
えた人は、男性の8・1%
に対して、女性は54%。特
に年代の高い女性ほど割合
が高かった。日本では戦後
の高度経済成長期に、夫が
外で働き、妻は専業主婦と
いう家庭が増え、家事と子
育てをするのがいい妻、い

い母だと考えられていたこ
とが背景にあるようだ。
現在は仕事を持つ女性や
共働き夫婦も増えた。しか
し、家事研究家の佐光紀子
さん(60)は「女性が家事を
しなければという古い価値
観に、無意識のうちにとら
われている人は多い」と指
摘。性別を問わず、子ども
の時から家事をする習慣を
つけるために「お母さんが
やっていて、面白そうと思
うことを任せてもらって」
と提案する。ハンバーグを
こねる、お弁当を詰める、

掃除や洗濯、料理に皿洗い。気持ちよく暮ら
していくためには、こうした家事が欠かせません。新
型コロナウイルスの影響で自宅過ごす時間が増
え、家族が家事をする姿を見る機会も増えたでしょ
う。「自分も参加している」という人もいるかもし
れませんが。皆さんの家庭では、誰がどんな家事を
していますか？
(海老名徳馬)

女性が主体 今も



※クロス・マーケティング「ジェンダーレス・多様性についての意識と実態調査」(2021年6月)から。2575人が回答

生活部
「学ぶ」ファクス
052(222)5284、メール
seikatu@chunichi.c
o.jpへ。QRコードから、ワ
ークシート兼応募用紙もダウン
ロードできます。17日締め切り。



皆さんの意見を
送ってください

皆さんは家事をしたことがあ
りますか？ どんなふうに分担
するのがいいと思いますか？
意見を送ってください。紙面で
紹介したお子さんの中から抽選
で図書カードをプレゼントし
ます。応募は〒460 8511 中日新

洗濯機を回すなど、簡単な
ことでもいい。「何度も繰り返
返して興味が増せば、食材
を買いに行ったり服を干し
たりと、家事の範囲を広げ
ていける」